

建てる前に知りたい！

「ああすれば良かった」を避ける

# 間取りセルフチェック

## 43選

#共働き夫婦

#子育て夫婦

#家事ラク #時短

木と土壁のデザイン住宅

**zouka**

Nobono Shokunin-mura Kameyama  
Mie, JAPAN

## ーはじめに

注文住宅には、検討すべき重要なポイントが多くあります。そこで弊社は、入居後の「ああすれば良かった」を避けるため、特に家族で検討必須の項目をカテゴリ別にまとめてみました。

ご自身でプランを検討する際、すべての項目にチェックが付けられるか、ご家族で確認してみてください。チェックがすべて埋まれば、理想の暮らしへと一歩近づくはずです。

## ーカテゴリ

カテゴリ名をタップするとページに移動します

[#リビング](#)

[#子ども部屋](#)

[#ダイニング](#)

[#収納](#)

[#キッチン](#)

[#コンセント](#)

[#浴室](#)

[#ドア](#)

[#トイレ](#)

[#外回り](#)

[#洗面・洗濯](#)

[#生活動線](#)

[#寝室](#)

# # リビング

## □ 01 ソファなど家具のサイズを考慮して部屋の広さを決め、出入りや通路に不具合はない

**後悔例** 「家具を置いたら部屋が狭く感じる」

いざ家が建ってから家具を配置しようとする、と、「うまく収まらない」「生活動線が狭くなる」「ごちゃごちゃする」といった問題が生じがちです。快適な空間を作るためには、間取りを決定する段階で、配置する家具の種類や具体的なサイズを考慮し、レイアウトを検討しておくことが重要です。

## □ 02 家具の配置を考えて、窓を設置する場所を決めた

**後悔例** 「窓のせいで家具が置けず、レイアウトが限られる」

窓の大きさや位置を家具の配置より優先して決めると、窓のせいでソファやベッドなどの大きな家具が置きたい場所に設置できなくなります。その結果、希望通りのレイアウトが実現できず、部屋の使い勝手が悪くなったり、採光や風通しを活かせなくなったりする失敗につながります。

## □ 03 立地の日差しを確認してから日当たりを考えた

**後悔例** 「日当たりが良すぎて暑い」

日当たりが良いことは一般的にメリットですが、良すぎる（特に遮るものが少なく、大きな開口部がある）と、特に夏場は思った以上に暑くなることも。窓の大きさの検討はもちろん、日差しが入りやすい場所かどうかなど家を建てる周辺環境もよく見ておきましょう。

# # リビング

## □ 04 パソコンやプリンター、子どもの学習機などをリビングに置くことを検討した

---

### 後悔例 「部屋も狭く感じるし、ごちゃついてしまう」

後から学習机や棚を置くことでリビングの動線が圧迫され、部屋が狭くなります。さらに、PCや学習道具を収納する場所がないため、リビングが常に散らかり、快適性が損なわれるという問題が生じます。リビングに置くか置かないか、そして、置く場合は、01同様レイアウトまで検討しておくで安心です。

## # ダイニング

### □ 05 ダイニングテーブルと家族分のイスを置いても十分なスペースがある

**後悔例** 「テーブルが大きすぎて動線が狭くなり使い勝手が悪い」

部屋に合わない大きなテーブルやイスを置いてしまった場合、背後を通るたびに横歩きになったり、キッチンからの配膳・片付けの動線が妨げられたりして、日常的なストレスになります。間取りを決定する段階で、配置する家具の種類やサイズを考慮し、置いた時に動線が妨げられないかをよく検討しておきましょう。

## # キッチン

### □ 06 パントリーなどの棚の奥行きは、奥まで手が届くサイズで検討した

**後悔例** 「奥行きが広くて、奥のものが取り出しにくい」

「たくさん収納できるから奥行きは広い方が良い」と考える方も多いかと思いますが。しかし、食品や食器を収納する棚は奥行きが広すぎることで、中に何があるか分かりにくくなり、出し入れも不便になってしまいます。奥行きは適度な広さで、手が届くサイズにすることをおすすめします。

### □ 07 キッチンとパントリーが近くにある

**後悔例** 「物を取りに行くのが面倒でいらなかったかも」

パントリーとキッチンが離れていると、料理中や後片付けの際の行ったり来たりが面倒になり、結局使わなくなってしまうことも。その結果、キッチンやカウンター周りが物で溢れかえることに繋がります。パントリーはキッチンの近くに配置し、さらに玄関にも近いと買い物帰りがラクになります。

### □ 08 ゴミ出しまでの動線がスムーズである

**後悔例** 「ゴミ出しが大変」

ゴミ出しは、地域差があるものの家事の中では頻度が多いもの。ゴミ袋を持って移動する距離が長いと、雨の日や重いゴミのときに大変です。勝手口を設置したり、玄関から道路まで段差をなくしたりして、「短く・ラクに」運べる工夫を取り入れましょう。間取りを作るときに家事動線と一緒に考えてみましょう。

## # キッチン

### □ 09 冷蔵庫は開閉、出し入れを考慮して位置を決めた

**後悔例** 「冷蔵庫の開閉、出し入れがしづらい」

冷蔵庫の設置場所を間違えると、扉が開けづらくなったり、奥の食品を取りづらくなってしまったりということも。冷蔵庫の設置場所を事前に決めた上で図面を作成していくと思いますので、キッチンでどのように作業をするのか、具体的に導線をイメージしてから図面を完成させましょう。

### □ 10 食器棚や各種必要な機器類（炊飯器、電子レンジなど）は無理なく置ける

**後悔例** 「調理家電を置く場所が足りない」

調理家電はどんどん進化して、様々な用途のものが出てきています。必要な食器棚や家電の具体的なサイズ、数を考慮せずにキッチンの収納や背面スペースを決めると、すべての物が収まりきらなくなります。事前に、今持っているものと今後欲しい家電のサイズや数を確認し、配置を検討しましょう。

### □ 11 冷蔵庫→シンク→コンロの調理動線は効率的である

**後悔例** 「調理中に行ったり来たりして疲れる」

冷蔵庫・シンク・コンロを結んだ三角形の動線は「ワークトライアングル」と呼ばれます。このバランスが悪いと、移動距離が長くなり、料理の度に無駄な動きが増えて効率が低下します。三辺の合計が360～660mmに収まっているのが理想的と言われているので、現状の図面で確認してみましょう。

## # キッチン

### □12 複数人でキッチンに立った時に、通路や作業スペースが渋滞しない

**後悔例** 「家族でキッチンに立つと通路が渋滞してイライラする」

キッチンの通路幅や作業スペースが不十分だと、夫婦や親子など複数人でキッチンに立った際に、体のぶつかり合いや移動の渋滞が頻繁に発生します。特にカウンターと食器棚の間などの通路幅は、一人が作業していても後ろを人が通れるよう、ゆとりのある寸法を確保することが重要です。

# # 浴室

## □ 13 浴室と浴槽、洗い場の広さを検討した

**後悔例** 「広すぎ・狭すぎで、使い勝手や掃除に不満が出る」

浴室は、狭いと「子どもとの入浴時に手狭に感じる」、広いと「掃除の手間や時間がかかる」など、広すぎても狭すぎても不満が出ます。現在の家族構成や将来的なライフスタイル（介護や子どもとの入浴など）を考慮し、「広ければ良い」と思わず、適切な広さを検討することが重要です。

## # トイレ

### □ 14 将来のことも考えて2階のトイレを検討した

**後悔例** 「トイレが足りない。夜中のトイレが不便。」

家族が多いと、朝の忙しい時間にトイレが混み合う渋滞が発生します。また、就寝時にトイレに立つ際、必ず階段を上り下りする必要があるため、家族の高齢化や体調不良時の負担が増大します。混雑緩和と安全性の観点から、将来的な必要性を検討しましょう。

### □ 15 音や視線を考慮して場所を決め、ドアも他から見えにくく、音も漏れにくい

**後悔例** 「トイレの音が部屋に漏れてしまう」

玄関からトイレのドアが見えてしまうと、来客対応中にトイレに行きづらい・出づらいという問題が起こります。また、寝室のすぐ横に設置すると、夜中に誰かがトイレを使うと音が気になってしまうなどの問題点が出てきてしまいます。来客や家族からの視線を考慮し、配置や窓、ドアの位置を慎重に決めましょう。

# # 洗面・洗濯

## □ 16 洗濯機のサイズを考えて設計した

**後悔例** 「入口が小さくて元々使っていた洗濯機が入らない」

玄関、廊下、洗濯室の入口が小さくて、以前の住まいから持ち込んだ洗濯機が入らないなんてことも。特に、近年人気のドラム式は幅が広めなため要注意です。買い替えや故障時の搬入・搬出に困らないよう、間取り計画時に通路や開口部の寸法を必ず確認しましょう。

## □ 17 洗面台と脱衣所を別々にする選択肢を考慮した

**後悔例** 「洗面台を使いたい時に使えなくて困る」

洗面台と脱衣所を一体にした場合、家族の誰かが入浴している間は洗面台を使いたくなくなります。朝の支度や歯磨き時には「洗面所渋滞」が発生することも。特に、交代勤務などで家族が入浴する時間がばらつく場合、洗面台と脱衣所を別々にするという選択肢も考慮してみてください。

## □ 18 洗濯→干す→片付けるの流れが一直線、または近い距離で完結する

**後悔例** 「洗濯のたびに家の中を移動しなければいけない」

洗濯機、物干し場所、収納場所が離れていると、洗濯物を運んで、干して、取り込んで、畳んで、片付けるまでの移動距離が長くなり、家事負担が大幅に増加します。毎日の家事において、この非効率な動線は日々のストレスとなり、特に悪天候時や洗濯量が多い日に負担を感じることに繋がります。

## # 洗面・洗濯

### 19 梅雨時や花粉の時期の室内干しのスペースを検討した

**後悔例** 「リビングが洗濯物でいっぱい…」

室内干しスペースが十分でないと、LDKなどの生活空間に大量の洗濯物を干すことになり、湿気や見た目の問題が出てきます。近年は、一年中部屋干しすることを選択する方も増えていきますので、一年中部屋干しするのか、時期によって異なるのか、生活スタイルに合った室内干しスペースを検討してみてください。

# # 寝室

## 20 ベッドのサイズを具体的に考慮して広さを決め、出入りや通路に不具合はない

**後悔例** 「ベッドが大きすぎて部屋が窮屈になった」

部屋の広さを漠然と決めると、実際にベッド（クイーンサイズやキングサイズ）を置いた時に、出入りのしにくさや通路幅の狭さが気になることも。間取りを決定する段階で、ベッドの種類や具体的なサイズを考慮し、レイアウトを検討しておくことが重要です。

## 21 寝具の収納を検討した

**後悔例** 「季節ごとの布団や予備の布団がしまえない」

季節ごとの布団や予備のシーツ、来客用の布団などの寝具の収納スペースを具体的に確保していないと、それらがクローゼットや押し入れに収まりきらなくなります。家族分の寝具が収納できるよう、クローゼットの横幅や奥行きを検討しておきましょう。

## 22 寝室からトイレへの夜間の動線は安全で分かりやすい

**後悔例** 「(年をとってから)トイレまでの夜間の移動が不安」

寝室からトイレまでの動線上に階段や障害物があったり、距離が遠かったりすると、夜間に目が覚めた際に移動しづらく危険です。特に照明をつけずに移動する場合、家具の角にぶつかったりつまずいたりするリスクが高まります。永く快適に住まうことができるよう、寝室からトイレまでの動線をよく検討しましょう。

## # 子ども部屋

### □ 23 学習机などのサイズを具体的に考慮して 広さを決め、出入りや通路に不具合はない

**後悔例** 「子どもが大きくなるにつれて部屋が狭く感じる」

子ども部屋に必要な学習机や本棚、チェスト、ベッドなどの具体的なサイズを検討せず、部屋の広さを決めてしまうと、後々窮屈になったり動線が悪くなったりする可能性があります。間取りを決定する段階で、配置する家具の種類や具体的なサイズを考慮し、レイアウトを検討しておくことが重要です。

### □ 24 「子ども向けの部屋」ではなく、子どもが 家を出た後も長く使えるように設計した

**後悔例** 「子どもが巣立った後、部屋を持て余している」

子どもが小さいうちはリビングで過ごすことが多く、子ども部屋を使い始めるのは小学生くらい、そこから早くて10年ほどで巣立っていくことになります。子ども専用の部屋と考えず、子どもが家を離れた後にも別の用途で使えるように工夫しておく、スペースを無駄にせず使うことができます。

## # 収納

### □ 25 用途の限られる収納（CDラックなど）は 必要性を十分に検討した

**後悔例** 「造り付けラックの使い道がなくなった」

特定の用途に特化した収納は、ライフスタイルや技術の変化により用途がなくなると、無駄なスペースと化します。造り付けたら簡単には移動したり、撤去したりはできません。改めて本当に必要なかを家族で相談し、入れたいものや置きたいものをしっかり決めておくようにしましょう。

### □ 26 各部屋ごとに必要な収納があり、幅や奥行き は適切で使いやすい

**後悔例** 「収納に収まりきらず、部屋に物が溢れてしまう」

各部屋で何を、どれだけ収納するか具体的に検討しないと、収納が足りなくなる可能性が。また、奥行きが深すぎると奥の物が取り出しにくくデッドスペースになったり、幅が狭すぎて大きな家具や家電が収まらなかったりして、使い勝手が悪くなります。事前に収納するものをリストアップしてみましょう。

### □ 27 家族全員の持ち物（衣類・季節物・趣味用品） が収まる総量を確保した

**後悔例** 「収納を圧迫していて、季節物を所有できない」

各部屋のクローゼットや収納を個別に考えるだけで、家族全員の衣類、季節家電、アウトドア用品、趣味の道具といった総量を確保できていないと、新居でも物が収まりきらなくなります。事前に収納するものをリストアップし、廊下などデッドスペースになりがちな場所に全体の収納量を確保しましょう。

## # 収納

### □ 28 玄関に家族全員の靴や傘、ベビーカー、アウトドア用品が収まる収納の検討をした

**後悔例** 「玄関がごちゃごちゃしていて、来客時に恥ずかしい」

家族全員の靴や傘の他、ベビーカー、スポーツやキャンプなどのアウトドア用品を収納したい場合は、十分な収納計画が必要です。収納が不十分な場合、玄関に常に物が出ている状態になり、狭く感じたり、来客時の見栄えが悪くなったりします。

### □ 29 掃除機や掃除道具の収納場所は、使う場所の近くに設計した

**後悔例** 「掃除道具の出し入れが面倒で、掃除が億劫になる」

掃除機や掃除道具の収納場所が使う場所から遠いと、取りに行くのが面倒になり日々の掃除が億劫になります。また、コードレス掃除機の場合、収納場所に充電用のコンセントがないと、さらに使い勝手が悪化します。掃除道具は、主要な生活スペースの近くに収納できるよう計画しておく安心です。

# # コンセント

## □ 30 キッチンに設置する機器類（炊飯器、電子レンジなど）のコンセントを十分に確保した

**後悔例** 「コンセントが足りず、タコ足配線になる」

キッチンで日常的に使う家電の数や配置を具体的にイメージしていないと、コンセントが不足します。その結果、一つのコンセントに複数の機器を繋ぐタコ足配線となり、見た目が悪だけでなく、火災のリスクを高めることになります。よく使う家電を見極めて、必要なコンセント数を決めましょう。

## □ 31 ダイニングでホットプレートを使うかどうかを想定して、コンセントの位置を検討した

**後悔例** 「ホットプレートの電源がコンセントに届かない」

焼肉、たこ焼き、お鍋などダイニングテーブルで調理家電を使う際は、近くにコンセントが無いと延長コードが必要になり不便です。また食事をとる以外にも、在宅勤務などダイニングでPC作業をする際に、近くにコンセントがあると便利です。

## □ 32 コードタイプの掃除機をかけることなどを想定して、廊下のコンセントを検討した

**後悔例** 「廊下の掃除機がかけにくい」

コードタイプの掃除機を使用される場合、廊下や階段にコンセントがないと、掃除の途中でコンセントの差し替えが必要になり、効率が悪く面倒になります。また、夜間の移動に足元灯などを設置される場合にもコンセントは必要です。家族の生活スタイルをイメージし、コンセントの有無を検討しましょう。

## # コンセント

### □ 33 洗面室で使用する機器類（ドライヤー、電動髭剃りなど）のコンセントを十分に確保した

**後悔例** 「朝の混雑時はコンセントの取り合いになる」

洗面室で日常的に使う家電の数や配置を具体的にイメージしていないと、コンセントが不足します。特に、家族が一斉に準備をする朝の混雑時は、コンセントの奪い合いに発展する可能性も。家族の人数と朝晩に使用・充電する機器を想定し、鏡裏収納内なども含めて十分なコンセント数を確保しましょう。

### □ 34 各部屋で具体的な用途を想定して、必要な位置に十分な数のコンセントを確保した

**後悔例** 「欲しいところにコンセントがない」

各部屋でどこに何を置くか、具体的な家具配置と家電の用途を想定せずにコンセントの位置や数を決めると、「欲しいところにコンセントがない」「棚を置きたい場所にコンセントがある」という状況に。どこにコンセントがあれば不自由なく暮らせそうか、事前にイメージしてみましょう。

## # ドア

### □ 35 開き戸にするか、引き戸にするかを検討した

**後悔例** 「開閉時に邪魔になりデッドスペースや渋滞ができる」

扉の種類を検討せず開き戸にすると、扉を開けた分のスペースがデッドスペースになったり、開閉時に廊下や室内の動線を塞いで渋滞が発生したりします。特に狭い廊下や部屋では、引き戸の方がスペースを有効活用できます。通路幅や開閉の頻度などを考慮し、それぞれのメリット・デメリットを比較検討しましょう。

### □ 36 開閉でコンセントや家具などと干渉しないように検討した

**後悔例** 「扉を開けると家具にぶつかる」

扉の開閉範囲を正確に確認せずにコンセントや照明、家具を配置すると、コンセントに扉が被って使いづらかったり、家具にぶつかったりして扉が完全に開かず、部屋の使い勝手が大きく損なわれることがあります。扉の種類と開閉方向に合わせて図面上でシミュレーションし、干渉しないように配置しましょう。

### □ 37 扉の開き勝手（ドアがどちら側に開くか）は動線を妨げていない

**後悔例** 「扉のせいで動線が遮られる」

室内ドアの開き方は「内開き」が基本です。扉の開き勝手を検討しないと、扉が通路を遮る方向に開くため、出入りするたびに扉を回り込んだり、避ける手間が生じます。部屋から出る際、扉が壁側（デッドスペースとなる方向）に開くように、出入りの動線を考慮して開き勝手を決めましょう。

## # 外回り

### □ 38 駐車スペースは将来的な台数やサイズを考慮して確保した

**後悔例** 「車の買い替えや台数増加に対応できず駐車に困る」

子どもが成長して車を持つようになったり、家族構成が変わって大きなミニバンやSUVへ買い替えるたりした際に、スペースが不足することも。駐車が窮屈になり、車の出し入れやドアの開閉で不便を感じるようになります。将来的な車の台数増加やサイズアップを見越し、余裕を持った幅と奥行きを確保しましょう。

### □ 39 駐車・駐輪スペース、外物置き、庭などを考慮して確保した

**後悔例** 「外回りの収納やスペースが足りない」

駐車場だけでなく、駐輪スペース、タイヤやアウトドア用品をしまう外物置き、ガーデニングや子どもの遊び場となる庭のスペースを総合的に考慮しないと、敷地全体が非効率な使い方になります。外で使うものの量と、将来的な庭の使用目的を明確にして、敷地全体をバランス良く計画しましょう。

# # 生活動線

## □ 40 外出や帰宅時の動線で、手洗い、着替えがスムーズである

**後悔例** 「着替えた服がそのまま床に散乱している」

「玄関 → 手洗い → ファミリークローク → リビング」という一連の行動がスムーズな動線を「ただいま動線」と言います。玄関からリビングへ直行するような動線で、帰宅後すぐに手洗いができる洗面台や、アウターを脱ぐための収納があると、衛生面や片付けのしやすさという面で便利です。

## □ 41 スーパーの帰り、食品をスムーズに片付けることができる

**後悔例** 「買って来た食品を抱えての移動がストレス」

「玄関 → パントリー → キッチン」というスムーズな流れになっていると、買い物帰りにそのまま買ったものをパントリーに収納しながらキッチンまで移動できます。荷物をしまうべき場所を必ず通る動線ですので、散らかることがまずありません。また、駐車スペースから玄関までの距離も短いと、さらに便利です。

## □ 42 家族が同時に動く朝の時間帯に、洗面所やトイレ、通路が混雑しない

**後悔例** 「朝の混雑時は洗面所やトイレが取り合いになる」

家族全員が準備のために同時に動く朝の時間帯に、洗面所、トイレが狭かったり数が少なかったりすると、激しい渋滞が発生し、出かける準備がスムーズに進まない失敗につながります。家族構成や生活リズムを考慮し、洗面台の複数設置やトイレの配置、通路幅を十分に確保しましょう。

## # 生活動線

### □ 43 来客があった際に、家族のプライベートスペースを通らず客間やトイレに案内できる

**後悔例** 「来客をプライベートな空間に通すことになる」

来客を客間やトイレに案内する際、LDKや生活感の出やすい脱衣所などのプライベートな空間を通らなければならない動線だと、お互いに気まずい思いをします。また、急な来客時にプライベート空間の片付けが間に合わない場合も。玄関から直接客間や共有のトイレへ案内できる、来客用の動線を検討しましょう。

## — いかがでしたか？

いくつチェックすることができましたか？

このシートを活用して、ご夫婦で、ご家族の未来を思い描きながら、一つ一つ丁寧に検討してみてください。

チェックを終えたときには、きっと理想の家に対するイメージが格段にクリアになっているはずです。

